

## ウズベキスタン

### 主要データ

国名〔英名〕	ウズベキスタン共和国〔Republic of Uzbekistan〕
面積(km <sup>2</sup> )	447,400
海岸線延長(km)	0
人口(百万人)	28.1
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	62.8
GDP(百万US\$)	38,987
一人当りGDP(US\$)	1,380
主要鉱産物：鉱石	銅、金、タングステン、ウラン
主要鉱産物：地金	銅、亜鉛、テルル、セレン、金、モリブデン
鉱業管轄官庁	国家地質鉱物資源委員会
鉱業関連政府機関	国家財産委員会、国家鉱量委員会
鉱業法	地下資源法(1994年9月23日)
ロイヤルティ	-
外資法	外国投資法(1998年4月30日)、外国投資保証・保護法(1998年4月30日)
環境規制法（環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等）	環境保護法、廃棄物法等（環境影響評価制度あり）
鉱業公社	NGMK、AGMK
鉱業活動中の民間企業	Oxus Gold PLC（英）等
近年の鉱業関連問題（資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2005年のアンデジャン反政府暴動事件以降、欧米諸国との関係が悪化。税特典廃止・追徴課税により欧米企業がかかる事業から撤退、ウズベキスタン国営企業がその権益を引き継いだ事例あり。</li> <li>・ 2006年以降、欧米からの投資誘致、資金調達が難しい中、韓国、中国、ロシア企業との地下資源共同探鉱開発が活発化。ウランやレアメタル探鉱に向けたJVの設立などが進展。</li> <li>・ 近年、資源価格の高騰の恩恵を積極的に受けるべく、ウラン等の地下資源開発の近代化、販売力の強化を志向。</li> </ul>
2010年のトピックス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2010年4月、ガニエフ副首相兼対外経済・投資・貿易大臣が来日。これに同行の国家地質鉱物資源委員会のトゥラムラトフ議長代行とJOGMECとの間で、ウズベキスタンにおけるレアメタルに係る共同探査の覚書を締結。</li> <li>・ 2010年9月、カリモフ大統領令により、国家地質鉱物資源委員会を再編。地質調査権限を2つの国営企業（NGMK；貴金属・ウラン、AGMK；非鉄金属）に移管。それぞれに付属の地質学センターが設立される予定。</li> </ul>

## 1. 鉱業一般概況

ウズベキスタン共和国の主要非鉄金属資源は、金、ウラン、モリブデン、タングステン、銅、鉛、亜鉛、銀、セレンであり、埋蔵量では、モリブデンが世界第 11 位、ウランが第 12 位、生産量では、ウランが世界第 7 位、テルルが第 6 位、金とタングステンが第 9 位となっている。我が国への輸入を見ると、2010 年、金地金が第 1 位（全輸入の 24%を占める）、モリブデン地金が第 8 位などとなっている。

ウズベキスタンの鉱物資源の探鉱開発は、国営企業が主導的役割を果たしてきたが、1995 年以降、大規模金鉱山を除く主要企業の民営化、一部金鉱山やウラン鉱山への外資参入の動きが出てきていた。しかしながら、2005 年のアンデジャン反政府暴動事件以降、欧米諸国との関係が悪化した。2006～2007 年にかけて、米 Newmont Mining(米)の金プロジェクト Zarafshan をはじめ、幾つかの欧米系のプロジェクトが税制変更に伴い破産宣告、追徴課税などを受けた。こうした動きはアンデジャン反政府暴動事件に対する欧米の人権批判に対応したものとも言われている。

一方、ウズベキスタン政府は、ウラン価格高騰等を受けてウラン採掘産業近代化プログラムやウラン購入者の多様化に大きな関心を示すようになってきている。しかしながら、主にアンデジャン反政府暴動事件に続く政治危機が原因で、カザフスタンとは異なり 2000 年代後半のウラン価格高騰局面を必ずしもうまく利用することができていない。その要因として、既存鉱床の枯渇と設備の老朽化、新規鉱床の開発難（開発技術が必要な黒色頁岩型鉱床）があげられる他、内政の特殊性と地域の政情不安を背景に外資誘致による大規模投資の不足（自国財源では限界）等から生産拡大計画の実現が容易でないといわれている。

こうした国内政治情勢により、西側企業や国際金融機関からの投資・支援が期待しにくい状況の中で、韓国、中国、ロシアなどからの資本流入（非鉄金属に関する資産民営化や調査・採掘分野への投資など）の動きが活発化しており、我が国を含め中国、韓国などとの協力拡大の可能性につき注目されるようになってきている。また、欧米との関係についても、2007 年 5 月、2008 年 10 月と相次いで EU がウズベキスタンに対して課していた制裁措置を緩和するなど、関係が徐々に好転している。

特にウラン分野では、韓国(KORES : Korea Resources Corporation)、中国 (CGNPC: China Guangdong Nuclear Power Holding Corp.) がウズベキスタンにおいてウランの探査活動を行っている。Kores は、2008 年 5 月、国家地質鉱物資源委員会と Samarkand 地方の Tym-Kaltasay タングステン鉱床の共同探査を実施することでも合意している。

こうした中、我が国も 2007 年 4 月、甘利経済産業大臣・JOGMEC 等の訪問時の基本合意の下、現在、ウラン(2009 年)及びレアメタル(2010 年)に関する調査を実施したことを始め、2008 年 7 月以降、我が国企業と国家地質鉱物資源委員会との間でウラン鉱床開発について 3 件が基本合意に至っている。また、2008 年 8 月には日・ウズベキスタン投資協定が署名されている。

## 2. 鉱業政策の主な動き

ウズベキスタンでは、地下資源は国家の独占的な所有物であり、外国人及び外国資本による企業等はこれを利用できると規定している。また、鉱物資源に関連する法令は、地下資源法その他、許認可法、生産分与協定(PSA)法などが制定されている。

地下資源法では、地下資源の採掘ライセンス取得のための手続きを始め、地下資源の所有権やその利用、権限ある機関などに関する規定が設けられている。

また、許認可法では、国家地質鉱物資源委員会における採掘権、地表利用権等の譲受に係る入札や直接交渉の規定が設けられている。

生産分与協定法には、石油、ガス、鉱物資源の探査、探鉱、搾取に係る政府と投資家間の生産分与協定に係る締結、執行、協定期間等に関する規定が定められている。この協定の下、事業者は、補償を条件として限られた期間に独占的権利を与えられる。また、事業者には税制上の恩恵が与えられる

代わりに、生産量又は売上げの一定比率の譲渡のほか、ロイヤリティ及びボーナスの提供が求められる。事業者は生産量を割当制限なく輸出可能であるほか、同国の法令が改正されたとしても契約期間中は協定が優先され、国際調停への申し立て可能などの権利が認められている。

2006年、外国企業に投資時に付与された免税に近い税特典が廃止され、さらには過去に遡り追徴課税されるという事態が生じ、Newmont(米)及びOxus(英)との間で係争が生じた。この結果、Newmont社とウズベキスタン国営企業NGMK(Navoi Mining and Metallurgical Combine)のJV会社は破産を申し立て、2007年7月、同JVの権益をNGMK社が100%引き継ぐ形で、Newmont社は撤退した。

2009年には、外国企業に対する生産物分与契約(PS契約)の条件が変更され、契約上利益税、土地税、水資源利用税等が明記されていない場合であってもウズベキスタンの企業と同様に納税義務が生じ、地下資源利用税(ロイヤリティ)についても同国企業と同率と変更になった。なお、PS契約中の事業者には10年間の猶予期間が設けられる予定である。

2010年9月、カリモフ大統領は大統領令を発令し、国家地質鉱物資源委員会の再編を開始した。同委員会から国家鉱量委員会が分離され内閣の所管に、またウズベキスタン全領土で非鉄金属、貴金属、ウラン及びその随伴鉱物の地質調査を実施する権限を、一部を除き国営企業のNGMK及びAGMK(Almalyk Mining and Metallurgical Combine)に移管した。NGMKの所管には、国家地質鉱物資源委員会の下部組織である貴金属・非鉄金属地質学産学センター及びウラン・レアアース地質学産学センターが廃止され、これらをベースに設立される貴金属・ウラン地質学産学センターが移る。また国家地質鉱物資源委員会の所管だった6つの地質調査隊(4隊が金、2隊がウラン)もNGMK所管となる。AGMKの所管には、Sharky Kuramaをベースに設立される非鉄金属地質学産学センターが移る予定である。

NGMK及びAGMKによる地質調査は国家予算で賄われる。両社が地質調査のために国内に輸入する特殊設備、材料、輸送機器、ソフトウェア等は2016年12月31日まで関税支払いが免除される。

また政府は、国家鉱工業公共事業部門安全操業監視監督局(Sanoatkontekhnazorat)を再編し、国家地質鉱物資源委員会付属の地下資源地質調査国家管理局をその所管に移した。再編後、Sanoatkontekhnazoratは地質調査作業の際の法律順守を監督し、合意された鉱物採取量の順守と鉱床開発手順の監視を行う予定である。

### 3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

#### (1) 主要金属鉱石生産量

表 3-1. 金属鉱石生産量

鉱種	2008年	2009年	2010年	対前年増減比(%)
銅(千t)	103.5	80.0	80.4	0.5
金(t)	73.2	73.2	73.2	0.0
銀(t)	150.0	150.0	150.0	0.0
タングステン(t)	300.0	300.0	300.0	0.0
ウラン(t)	2,300.0	2,350.0	2,350.0	0.0

(出典: World Metal Statistics Yearbook 2011)

#### (2) 主要金属地金生産量

表 3-2. 金属地金生産量

鉱種	2008年	2009年	2010年	対前年増減比(%)
銅(千t)	115.0	80.0	80.4	0.5
亜鉛(千t)	61.0	19.0	56.0	294.7
セレン(t)	20.0	20.0	20.0	0.0
テルル(t)	10.0	10.0	10.0	0.0

(出典: World Metal Statistics Yearbook 2011)

(3) 主要金属消費量

表 3-3. 金属地金消費量

鉱種	2008 年	2009 年	2010 年	対前年増減比 (%)
銅(千 t)	35.7	29.6	38.3	29.4
亜鉛(千 t)	9.6	0.8	0.8	0.0

(出典 : World Metal Statistics Yearbook 2011)

(4) 主要金属輸出量

データなし

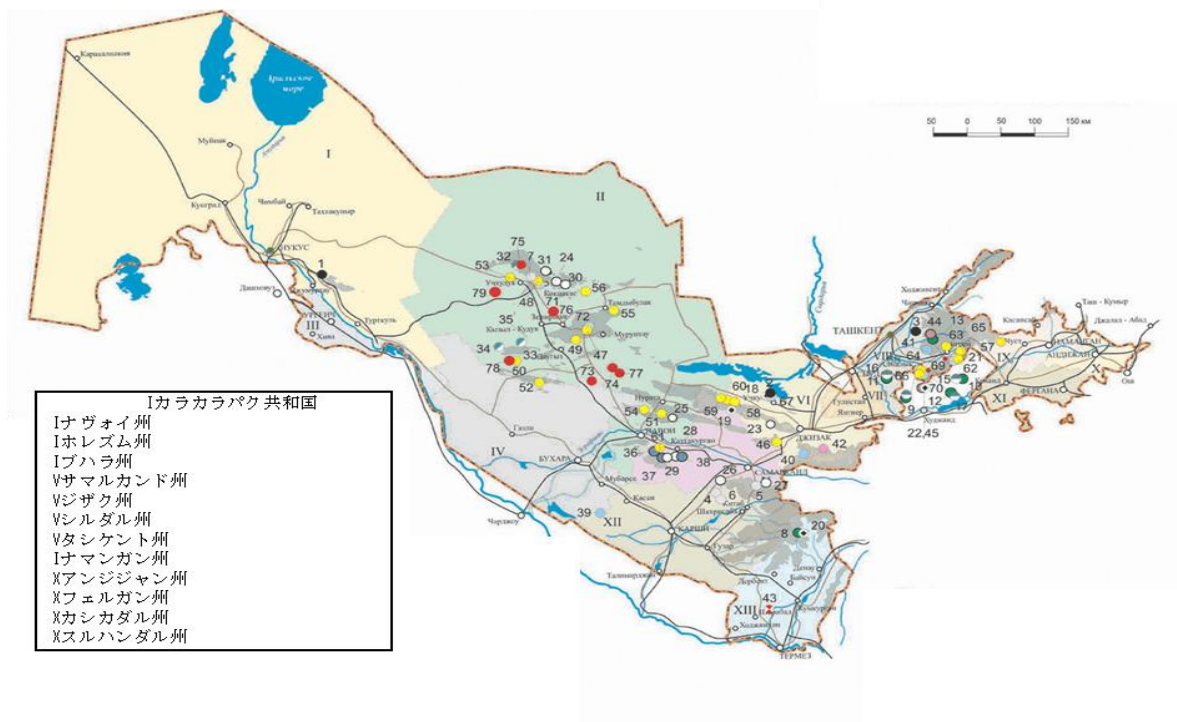
(5) 主要金属輸入量

データなし

4. 鉱山・製錬所状況

表 4-1. 鉱山一覧

鉱山 (プロジェクト) 名	権益所有企業 (権益 : %)	鉱種	生産量	備考	
Muruntau	NGMK: Navoi Mining and Metallurgical Combine (100)	金	180 万 oz (56.0t)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いずれの鉱山も製錬所併設。</li> <li>・生産量 : 2008 年 (Muruntau)、2007 年 (Kokpatas)、2006 年 (Zarafshan)。</li> <li>・Zarmitan は 2011 年生産開始予定。</li> </ul>	
Mardzanbulak			-		
Kokpatas			35.3 万 oz (11.0t)		
Zarafshan			12.4 万 oz (3.9t)		
Zarmitan			開発中		
Amantaytau Oxide	Oxus Gold PLC (英) (50) NGMK (10) 国家地質委員会 (40)	金	4.8 万 oz (1.5t)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産量 : 2008 年</li> <li>・2010 年現在、金採掘分野で唯一の外資企業</li> </ul>	
Almalyk Complex	AGMK: Almalyk Mining and Metallurgical Combine (100)	銅	8.25 万 t	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4 鉱山企業、2 選鉱場、2 製錬所からなる国営企業。</li> <li>銅・モリブデン鉱山 : Kalmakyr、Sary-Cheku</li> <li>金鉱山 : Kauldy、Chadak、Angren</li> <li>鉛亜鉛鉱山 : Uch-Kulach</li> <li>・生産量 : 2009 年</li> </ul>	
Khandiza		モリブデン 鉛 亜鉛 金	- - 1.91 万 t -		
Northern Mining District	NGMK: Navoi Mining and Metallurgical Combine (100)	ウラン	610 万 lb (2.8t) 3 鉱山合計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Navoi 市の北約 300km</li> <li>・主要鉱山 : Uchkuduk、Kendykijube</li> <li>・生産量 : 2008 年</li> </ul>	
Central Mining District					<ul style="list-style-type: none"> <li>・Zafarabad (Navoi 市近郊)</li> <li>・主要鉱山 : North &amp; South Bukinai、Beshkak、Lyavlyakan、Tokhumbet</li> <li>・Samarkand</li> <li>・主要鉱山 : Sabirsay、Ketmench、Shark、Ulus</li> </ul>
Southern Mining District					
Northern Kanimeh					
Dzhantuar	Kores : 大韓鉱業振興公社 (50) 国家地質委員会 (50)	ウラン	開発中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2003 年合意、2007 年 FS。</li> <li>・2011 年生産開始予定。</li> </ul>	



鉄鉱石	1. Tebinulakscoe	鉛・亜鉛	21. Lashkereksoe	リチウム	41. Shavazsayscoe	金	61. Karakutan	
	2. Temirkan		22. Kurgashinskanskaya		42. Karasuyscoe		62. Kochbulak	
マンガン	3. Syurenyata	タングステン	23. Koytashscoe	ストロンチウム	43. Sherabadskoe	銀	63. Kyzylalmasay	
	4. Dautashscoe		24. Sautbay		44. Kochbulak		64. Kaulydy	
	5. Takhtakarachinskoe		25. Lyangarscoe		45. Kurgashinskanskaya		65. Kayragach	
	6. Kzylbayrakscoe		26. Kara-Tyube		金		46. Mardzhanbulak	66. Nizhnekenzhasayskiy
	7. Alisay		27. Yakhtonscoe				47. Muruntau	ウラン
銅	8. Khandizinskoe	28. Ingichkinscoe	48. Kokpatas	67. Uchkulachskoe				
	9. Kalymakyr	29. Kalyta	49. Amantaytau	68. Kurgashinskanskaya				
	10. Sary-Cheku	30. Sarytau	50. Adzhibugut	69. Kurgashinskanskaya				
	11. Dalynoe	31. Sagynkan	51. Sarmich	70. Lashkereksoe				
モリブデン	12. Kyzata	バナジウム	32. Karyer Novyy	52. Taushan	71. Okzhetpes	72. Kosmanachi		
	13. Kochbulak		33. Rudnoe	53. Altynsay	73. Severny Bukinay			
鉛・亜鉛	14. Kalymakyr	銅	34. Dzhantuar	54. Biran	74. Beshkak	75. Karyer Novy		
	15. Sary-Cheku		35. Kosheka	55. Balpantau	76. Sugraly			
鉛・亜鉛	16. Dalynoe	リチウム	36. Karnabscoe	56. Turbay	77. Alendy	78. Dzhantuar		
	17. Kyzata		37. Lapasscoe	57. Guzaksay	79. Meylisyay			
	18. Uchkulachskoe		38. Changali	58. Charmitan				
	19. Charmitan		39. Dzharchi	59. Guzhumsay				
	20. Khandizinskoe		40. Naukinscoe	60. Promezhutochnyy				

図 1. 主要鉱山・プロジェクト位置図

(出典：ウズベキスタン共和国国家地質鉱物資源委員会)

## 5. 探鉱状況

韓国、中国、ロシアとの間でウランなどの探鉱プロジェクト・JV 設立が進められている。

### (1) 韓国企業

KORES は、2006 年、国家地質鉱物資源委員会と共同で 50:50 の JV を設立し、ウラン探査を行うことと基本合意、Kyzylkum 地方の Dzhanthuar での探査を行った結果 15,000t のウランの埋蔵量を確認。2007 年 4 月、プレ FS を完了し JV 企業設立の交渉に移行している。本プロジェクトは、2011 年までに商業生産に移行し、400t/年の生産を見込んでいる。2008 年 5 月、覚書を発展させる形でウズベキスタン政府は 2010~2016 年に韓国に 2,600t のウランを輸出する合意書に調印した。また同社は、2008 年 5 月、国家地質鉱物資源委員会と Samarkand 地方の Tym-Kaltasay タングステン鉱床の共同探査を実施することで合意している。

Shindong Enercom 社は 2010 年 3 月、国家地質鉱物資源委員会と JV を設立して Tashkent 州 Shavazsai リチウム鉱床を探鉱開発 (5,000 万 US\$) する協定を締結した。同社は、Sautbai および Yakhton フィールドのタングステン鉱床の探鉱開発のための JV 設立 (3,000 万 US\$) も計画している。なお両者は 2008 年 8 月、石英・珪岩鉱床開発のため Uz-Shindong Silicon JV を設立している。

NeoPLANT 社は 2008 年 9 月、国家地質鉱物資源委員会との合弁会社 Uz-Kor Silicon (Kashkadarya 州及び Samarkand 州の石英・珪岩鉱床開発の JV) をベースとした工業用シリコン生産プロジェクト実現に関する協定に調印した。Uz-Kor Silicon は 2009 年、Samarkand 州の Carykul 鉱床と Kashkadar in 州の Tolakul 鉱床及び Kuduk 鉱床で石英・珪石の探鉱活動を行った。

Luxon Energy Holdings 社は 2010 年 3 月、国家地質鉱物資源委員会と Ingichki タングステン鉱山の再開発について JV (5,000 万 US\$) を設立する協定を締結している。

### (2) 中国

2009 年 8 月、CGNPC (China Guangdong Nuclear Power Co・中国广东核电集团) の子会社 CGNPC Uranium Resources Co Ltd (CGN-URC) は、国家地質鉱物資源委員会と Navoi 地域の Boztau ウラン鉱山を探鉱する JV ; Uz-China Uran を設立した。両社の出資比率は 50:50、出資額は 460 万 US\$、探鉱ライセンス期間は 3 年で、中国側は資金と設備を、ウズベク側が地質・地質物理学等の情報提供を担当する予定で、開発が難しいとされる黒色頁岩型ウラン鉱山の開発を目指している。

2010 以降に JV は約 200 万 US\$ を投資して契約エリアの地質調査を実施した結果、幾つかのウラン鉱床が発見されたが規模は未公表である (国家地質鉱物資源委員会データによると、Boztau エリアのウランの推定埋蔵量は約 5.5 千 t)。2011~2013 年にかけて CGN-URC は、2014 年の生産開始を前提に黒色頁岩型鉱床からのウランとバナジウムの分離生産技術の開発を計画している。JV 設立条件に基づき中国側は Uz-China Uran による生産物を国際価格で優先的に購買する権利を有している。

なお、ウラン採掘分野における協力は、2010 年 6 月の胡錦濤中国国家主席のタシケント訪問時の会談テーマの一つであった。

### (3) ロシア

2006 年 1 月、NGMK と Techsnabexport 社及び Rusburmash 社は、NGMK と Kyzylkum 地方の Aktau ウラン鉱床の共同開発を行うことに合意した。2006 年後半にも JV をスタートさせる予定であったが、ロシア原子力産業の再編に伴い Techsnabexport 社の役割を引き継いだ露 ARMZ 社 (Atomredmetzoloto) は、2010 年 6 月、当事者間でしかるべき合意に達せずウラン採掘 JV 設立交渉から撤退したことを認めた。ウズベク側はその原因を、ロシア側が財源を確定できなかったためであるとしている。また別の情報によると、ロシアは Aktau 鉱床について、開発するには規模と採算性が不十分とみなして開発を取り止め、NGMK の開発中の鉱床と替えることを希望したが拒否されたとしている。その後、NGMK は ARMZ に対して黒色頁岩型ウラン鉱床の開発につき協議をしたが、ARMZ はあまり見込みがないと判断した。

## 6. 我が国との関係

### (1) 日本への輸出

日本への精鉱及び地金輸出货量

鉱種	2008年	2009年	2010年	2010年増減率(%)
未加工金 (kg)	11,908.5	3,468.3	4,481.2	29.2
(百万円)	31,795.8	9,707.8	15,049.1	55.0
モリブデンの塊 (kg)	-	-	600	-
(千円)	-	-	2,173	-

(出典：ジェトロ「日本貿易統計データベース」(日本側通関統計))

### (2) 日本企業による投資状況等

2006年8月、我が国の現職総理大臣として初めて小泉総理がウズベキスタンを訪問し、カリモフ大統領と首脳会談を行い、両国間でウラン開発について官民で情報・意見交換を行っていくことで一致した。また、同時に、将来のウラン分野の事業を念頭に国際協力銀行(JBIC)とウズベキスタン対外経済関係投資貿易省との間で業務協力に関する覚書が締結され、11月には、我が国官民ミッションが訪問し、ビジネスフォーラムが開催された。

2007年4月には、甘利経済産業大臣がJOGMEC等の独立行政法人を率いて訪問し、その際、JOGMECは同委員会とウラン及びレアメタルの共同探査の実施等に係る覚書を締結した。また、伊藤忠商事が国家地質鉱物資源委員会とウラン鉱山の共同開発を行うことについて基本合意している。

2007年10月、伊藤忠商事はNGMKと特にRudnoye鉱床の黒色頁岩採掘・粉碎技術を開発し、2007年から約300t/年のウランを輸入することに合意した。探鉱結果に基づき2009年にはウラン生産能力約700t/年、折半出資のJV設立に着手する予定であったが、2010年現在、日本側はJV設立及び鉱床開発開始の経済的実現可能性に関し肯定的結論に至っていない。

2008年7月、三井物産が国家地質鉱物資源委員会との間でZapadno-Kokpatasskaya黒色頁岩型ウラン鉱床開発について基本合意、さらに2008年10月には双日が国家地質鉱物資源委員会との間でChetvertoye鉱区におけるウラン探鉱について基本合意した。なお、2008年8月には、日・ウズベキスタン投資協定が署名されており、この協定により、現地投資家と同様の投資条件がお互い相手国の投資家にも保証されることになっている。

JOGMECは、ウラン・レアメタルの共同調査について、2007年4月のウラン・レアメタル共同調査に関するMOUに基づき、2009年には黒色頁岩型ウラン鉱床の調査を実施した。また、2010年4月、ガニエフ副首相兼外相およびトウラムラトフ地質委員会議長代行の来日の際に、バヤンカラ地域(ウズベキスタン南部・サマルカンドの南西100kmに位置)におけるレアメタルの共同調査の実施についての協定書を締結し、2010年度から共同調査を開始している。なお、上記以外には、JOGMECは、過去に金鉱山に関する2件の資源開発協力基礎調査(ODA)を実施した実績がある。

## 7. その他トピックス

### (1) AGMK

Kalmakyr鉱山(銅、モリブデン)に関して、2010年1月、9,870万US\$の改修・拡張プロジェクトを開始し、2011年4月には、第2ステージの拡張を2011~2012年に完了する予定であることが報じられた。拡張の総費用は5,080万US\$で、当該第2ステージのFSによると同鉱山の鉱石処理能力は現在の2,700万t/年から3,000万t/年に拡大する。

Sary-Cheku露天掘鉱山(銅、モリブデン)に関して、2010年3月、2,350万US\$の改修・拡張プロジェクトを計画した。採掘量は現在の200万t/年から2015年には500万t/年に増大する。

Surkhandarya州のKhandiza多金属鉱床(銅、鉛、亜鉛など)については、2006年8月にこの鉱床開発の独占権がOxus Gold(英)からAGMKに移譲され、コンビナートの操業開始は2009年末を予定して

いたが、資金調達問題があり、2011年1月にずれ込む見込みである。

## (2) Amantaytau Goldfields JV

本JVは2003年12月、Central KyzylkumのAmantaytau鉱床において総額3,100万US\$の金抽出プラント第一期の操業を開始し、2010年に至るまでウズベキスタンの金採掘分野における主要な外資企業である。設計能力は酸化鉱処理100万t/年、金生産6.3t/年である。出資者である英国のOxus Gold Plcによると、同JVは2009年に金4,000oz(124.4kg)、銀1,703,000oz(53.0t)を生産した。

2010年1月、Oxus社は、酸化鉱処理能力400千t/年、金生産能力10万oz/年の金抽出プラント建設のため、中国企業コンソーシアム（中国政府が管理するBaiyin Non-Ferrous Group Co Ltd、CITIC Construction Co. Ltd.、中国の民間投資ファンドChang Xin Yuan Su）のエクイティ・ファイナンス方式による資金提供を含む合意書に調印した。しかしながら、2011年1月、Oxus社は、中国企業コンソーシアムが1.85億US\$の同JVへの資金提供を取り止めたと発表した。また2011年1月、JV；Amantaytau Goldfieldsの共同設立者である国家地質・鉱物資源委員会によると、ウズベキスタン政府はCentral Kyzylkumで金採掘を行っている同JVの任意清算手続きを開始した。この決定はJVの発展計画や金採掘増加計画の実施効率の低さによるものであるとされている。業界関係者は、同JV清算の決定は、Oxus社によるJV発展への投資誘致の試みが失敗した結果であるとしている。

2011年2月、Oxus社は事前合意に基づき、同JVの持ち分をウズベク側に売却予定であると発表した。同年3月、Oxus社は継続中の操業に必要な特定のライセンス及び許可が更新されなかった旨を発表した。また同月中にOxus社はウズベキスタンのAmantaytau金鉱床開発に関する協定の効力を一時停止した。Oxus社は不可抗力を宣言し「協定上の義務の遂行」はもはや行わないと表明した。更にOxus社は、以前行った自社のあらゆる提案に関し責任を負わないことを表明した。またOxus社は同社の持ち分が50%であるJV Amantaytau Goldfieldsの清算というウズベキスタン政府の計画に関し、同政府を国際仲裁裁判所に提訴する意向を示した。

(2011.8.16 モスクワ事務所 大木 雅文)